

## ジェンダーの視点からみる 中国「剩女」現象

宗雲菲

中国は世界で最も人口の多い国である。また膨大な人口のほかに、中国の出生性比のアンバランスはインドとともに世界的に有名である。出生性比（sex ratio at birth）は、女兒100に対し男兒100～105が正常とされているが、中国の出生性比は、1982年、1990年及び2000年に108.5、110.3、116.9、2010年には118.6に達し<sup>1)</sup>、正常値を大幅に超過していることが指摘されている。人口数も、男性総人口が女性総人口を1982年に2664万人、1990年に3313万人、2000年には4194万人超過している。

一方、このような男性人口過剰の背景にも関わらず、2007年に中国教育部が公表した171個の新語の中に「剩女」<sup>あまりおんな</sup>が登場した。「剩女」とは高学歴、高収入、高年齢の三高未婚女性を意味する言葉であり、主に都市女性を対象としている。「剩女」の語源を探求することは難しいが、日本で2003年にベストセラーとなった「負け犬の遠吠え」の中で「負け犬」<sup>2)</sup>という結婚適齢期を過ぎた未婚女性に対する差別的な言葉と通じるものがある。

この最近流行している「剩女」ブームと男性過剰の現実とのギャップはあまりにも大きい。「剩女」は本当に存在するのか、それともメディアがブームを作り上げているのだろうか。本論は、主としてテレビドラマの分析を通してその背景を検証し、中国社会の結婚をめぐる言説に強力なジェンダーポリティクスが働いていることを明らかにするものである。

## (一)「剩女」の実態

80年代、一人っ子政策が実行され、男児選好と出生選択（出産前診断による人工流産など）により中国の出生性比は正常範囲を超え続け、現在の男性人口過剰の現実をもたらしている。また、人口性比も、国連人口推計2010年版によれば、1995年、2000年、2005年、2010年には、それぞれ107.1、107.5、107.8、108.0であり、例年増加傾向にあり、男性人口の方が女性人口より多いことがわかる。

ただ、中国の場合は女兒の出生申告漏れなどが原因で（一人っ子政策に違反すると罰金を払わねばならない）、出生性比は現実より数値が高く出ることがある。ゆえに、実態をより正確に把握するために、たとえば陳友華・呂程『剩女：一個構建失実的偽命題（剩女：一つの構築された偽の命題）』<sup>3)</sup>では30歳から49歳までの独身男女を対象に、年齢層別、地域別、学歴別による詳細な調査を行っている。その検証結果は以下のとおりである。

- ①全国範囲から見ると、独身男性との比較において、どの年齢層も独身女性の数少なく、独身女性の不足数は年々増え続けている。1995年から2010年において、独身女性人口の不足数は、1995年は約868万人、2000年は約890万人、2005年は約1248万人であり、むしろ増加の傾向にある。つまり、独身男性の過剰が年々増加している。
- ②30～34歳の年齢層では、女性人口の不足が最も目立ち、年齢の上昇につれて独身女性人口の不足は下降傾向にある。
- ③農村部のみならず、都市部でも「適齢期」の女性不足が見られる。特に、農村部では女性不足の人数と割合はどの年齢層でも都市部をはるかに超えており、全体の独身女性の不足率は農村では都市部の三倍以上となる。
- ④未就学者、初等教育、中等教育、専門学校の順に、女性不足が緩和されるが、未就学者、初等教育及び中等教育レベルにおいて、どの年齢層でも女性人口が大量に不足している。ただし、高卒以上の独身女性人口において一部の年齢層でわずかな過剰が確認されたが、その数も比率も非常に少ない。結婚対象を選ぶ際に、必ずしも同年齢層から選ぶことはない（むしろ年齢や教育レベルにより男女でクロスする

のが一般的である), これをもって女性過剰を説明できない。

## (二) 中国の結婚事情

2003年に一ツ橋文芸教育振興会・日本青少年研究所が四か国高校生各1000～1300人を対象に『高校生の生活と意識に関する調査』を行った結果、中国の若者の結婚に対する期待が非常に強いことがわかった。<sup>4)</sup>「社会の一員として認められるには、やはり結婚することが必要だ」という項目に対し「全くそう思う」と「まあそう思う」人の割合は日本：18%；韓国：38.1%；中国：50.6%の順に上がっていく。

一方、諸外国の状況に目を転じると、平成22年度（2010年）内閣府『少子化社会に関する国際意識調査報告書』によると、「結婚は必ずすべきだ」と「結婚はしたほうがいい」の項目を選択した人の比率は日本64.5%、韓国75.9%、アメリカ53.4%、フランス33.6%、スウェーデン37.2%である。また、現実にも中国では既婚者の割合は極めて高い。2010年のデータによれば<sup>5)</sup>、15歳以上の未婚者の割合は男女ともに低く、さらに女性の未婚者の割合は男性よりも低く18.4%である。そして、既婚者の割合は極めて高く、男女ともに7割を超えており、特に女性は男性よりも既婚率が高い。

このような中国の強い結婚志向と高い結婚率の背景には、家父長制的な伝統思想があり、家系の存続を強く求める伝統的な儒教思想が根強く残っている。「男は外、女は内」という性別役割分業が肯定され、女は家庭を守るべきであり、家庭を作り子供を産むにはまず結婚という制度に入らねばならない。したがって結婚は社会のルールであり、常識でもあるのだ。

しかし、現実では2000年から2010年の十年間に初婚年齢が徐々に上昇し、晩婚化が進んでいる。とりわけ都市部ではそれが顕著である。同時に、若い世代の未婚者の割合が以前に比べ多くなりつつあり、中でも25～29歳の女性の増加が著しい。

このような晩婚化の兆し、特に女性の初婚年齢の上昇は明らかに今までの中国の現実及び人々の結婚意識に反する流れである。しかし、経済発展と現代化が進めば晩婚化は今後も進行すると予測される。本来なら男女性比において過剰人口が大量に発生している農村部の男性や初婚年齢が最も

高い都市部男性に対して結婚の圧迫がますます強くなるはずであるが、そうではない。むしろ農村部の男性過剰問題を隠蔽するためでもあるかのよう、に、現実には存在しない「剩女」現象に社会の目が向けられているのである。

メディアが結婚難に直面する男性を取り上げるよりも、意識的に女性を取り上げる理由は、都市女性の晩婚化を快く思っていない一部の社会意識の反映でもあり、メディアが作り出す「剩女」ブームの背後にはジェンダーポリティックスが働いている。メディアは中国社会の伝統観念に反する晩婚化の原因を女性に、とりわけ「剩女」に求め、結果として女性に対する結婚への圧力を強め、伝統的な結婚観を強化しているのである。

### (三)「剩女」を題材にするテレビドラマ

30代以上の独身女性を主人公とする「剩女」ドラマは世界的に広い範囲で見られ、ある意味で常に人々の関心と呼ぶ題材でもある。アメリカでは1998年から2004年にかけて全6シーズン計95回放送され、世界的人気を博したテレビ連続ドラマ『Sex and the City』<sup>6)</sup>がある。また、同時期にイギリスでは映画『ブリジット・ジョーンズの日記』<sup>7)</sup>が人気を博し、その後、各国でも同様のテーマの作品が続々出回るようになった。2005年の『アネゴ』<sup>8)</sup> (日)、『私の名はキムサムスン』<sup>9)</sup> (韓) の他、2007年には『タルジャの春』<sup>10)</sup> (韓)、『魔女ユヒ』<sup>11)</sup> (韓)、2009年には『負け犬女王』<sup>12)</sup> (台湾)、2012年には『負け犬 ボディーガード』<sup>13)</sup> (台湾) など多数ある。

一見、世界中同じように見える「剩女」ドラマだが、中国における「剩女」ドラマは欧米や日本とは違う。アメリカの『Sex and the City』、イギリスの『ブリジット・ジョーンズの日記』、日本の『アネゴ』において、結婚は選択の一つにすぎないのに対し、中国の「剩女」ドラマでは結婚願望を前面に呈示する傾向がある。韓国と台湾ドラマにもそういう傾向が見られる。

中国における「剩女」題材ドラマは主に3つのジャンルがある。

#### ①初期のホームドラマ式「剩女」ドラマ

②シンデレラ神話の手法を使った「剩女」ドラマ

③上記二つを融合した「剩女」ドラマ

一つ目は『美女也愁嫁（美人でも結婚問題に悩む）』<sup>14)</sup>、『晚婚』<sup>15)</sup>、『大女当嫁（適齢期を過ぎた女は結婚すべき）』<sup>16)</sup>などを代表作とし、中国従来のドラマの型に沿った「剩女」ドラマである。つまり、女性主人公は共通して綺麗で、性格も良く、人並みの収入を得ているが（俳優、教師、記者）なかなか結婚できない女性である。物語もありふれた日常生活であり、いわゆる人間味のあるドラマで、主なシーンは職場ではなく家庭である。そのため、主人公の仕事ぶりは殆ど描かれておらず、以降の「剩女」ドラマと区別する一つのポイントだと言える。

この初期のドラマでは、女性主人公は度重なる結婚活動の失敗を味わい、恋愛がうまくいかないために結婚できない。それにもかかわらず、話が進むにつれ、問題は実際の理由である「恋愛がうまくいかない」から「彼女らの理想が高い」にすり替えられていく。視聴者は知らず知らずのうちに、そのメッセージを受容し、さらに結婚願望が強くなる。実際に視聴者の投稿を検証した結果<sup>17)</sup>、「結婚は早い内に」、「理想を下げて」と言った内容が多数存在する。視聴者の大半は、「素直に」ドラマからこれらのメッセージを受容したことは確かである。このように早期のドラマは「剩女」の結婚への要求が高すぎると警告して、「剩女」の献身を促す。

二つ目は2005年に韓国で51%という奇跡的ともいえる史上最高の視聴率を記録したテレビドラマ『私の名前はキムサンスン』<sup>18)</sup>の影響を受けたパターンであり、『張小五的春天（シャオウの春）』<sup>19)</sup>、『一一向前冲（イーイー頑張れ）』<sup>20)</sup>がある。

この種のドラマでは、主人公が女性らしさに欠けていることが結婚できない原因であり、イーイーとシャオウはそれほどの美人でもなく仕事もいまいちだが、性格が朗らかで、楽天的で、善良な性格を持つ女性として描かれている。つまり、「女性らしさがなければ負け犬になる」というメッセージが込められたこれらのドラマは、ある意味女性に対する警告として視聴され続けたのである。

三つ目は韓国ドラマの要素を中国のドラマに織り込んだ新たな「剩女」

ドラマであり、現在の「剩女」ドラマの代表的なものであり、『錢多多嫁人記(チェン デウオデウオの結婚話)』<sup>21)</sup>(ネットドラマとテレビドラマ)、『李春天的春天(リ チュンテンの春)』<sup>22)</sup>、『盛女的黄金時代(「盛女」のゴールデンタイム)』<sup>23)</sup>がその代表である。

ドラマの女性主人公はいずれも美人で、仕事に夢中になっているキャリアウーマンである。女らしさの欠如どころか、反対に女性の魅力に溢れるいい女として描かれている。また、結婚できない原因として、相手に対する要求が高いとも設定されておらず、むしろ主人公が仕事に夢中になっているのが原因で、結婚が遅れたケースである。初期の「剩女」ドラマより職場のシーンや、仕事に関係するプロットが多く、さらに舞台は高層ビルにある現代感あふれるお洒落なオフィスで、従来の家庭内を舞台にした恋や結婚について悩む姿を追うものとの差別化を図っている。ただし、物語の発展につれて、一昔前のホームドラマを彷彿とさせるムードが高まり、男女主人公両側の親達の出番が多くなっていき、強い影響力を持つ存在として登場する。

このように、新しい「剩女」ドラマにおいては、家族の権威としての母親を利用し、家父長制的な結婚観を盛り付けるほか、韓国ドラマ的な美男子を利用し、ロマンチックなラブストーリーに仕上げることで、結婚をさらに強調する。これらのドラマでは、「結婚しない」は最初から選択に入っておらず、むしろ、自分の意志による結婚と家族のための結婚との葛藤を細かく描いている。

ドラマはハッピーエンドを迎え、ヒロインはめでたく結婚をする(あるいはそれを予感させる)シーンで終わり、女性の自己実現の達成を謳歌するようにも見える。しかし、問題は、この自己実現を果たすためには、結婚は不可欠であり、相手は韓国ドラマに出てくるような性格の良い美男子でなければならない。これは本当に真の自己実現と言えるだろうか。むしろ、このような男性と出会ったことによって、結婚し幸せな女性になれたことをあたかも女性の自己実現の第一番目の条件であるかのようにアピールしているように思えてならない。

以上のように、中国における3つのタイプの「剩女」ドラマいずれからも結婚していない独身女性への風当たりの強さがうかがえる。そして、テ

レビドラマが作り出す女性の結婚難の雰囲気は女性を焦らせ、視聴者は知らないうちに主人公の焦りを内面化し、さらにこの「剩女」ブームに加担してしまうことになる。

#### (四)「剩女」に関するテレビ番組

テレビドラマの他に、テレビのバラエティー番組においても、婚活や「剩女」を扱う番組が爆発的な人気を博している。「剩女」ブームに乗じて、結婚の困難を解決するため、各テレビ局でお見合い番組が作られ始めたのである。

##### 第一期ブーム 1998～2003年

最初は、1998年1月放送開始（現在に至る）の上海東方テレビ「相約星期六（土曜日のデート）」<sup>24)</sup>にさかのぼることができる。同年の湖南テレビ「薔薇之約（バラの約束）」<sup>25)</sup>（2005年8月放送終了）も名高い番組である。この二つの番組が2000年頃のテレビ婚活番組の代表であるが、2003年湖南テレビの「薔薇之約」の放送終了に伴い、この時期の婚活番組はブームの終焉を迎えた。各省、各市のテレビ局の模倣作も次々と打ち切りとなった。

##### 第二期ブーム 2010年～

婚活番組が再び盛んになるのは2010年である。2010年、湖南テレビは国際的に有名なテレビ番組「take me out」<sup>26)</sup>の著作権を購入、独自に「我們约会吧（私たちデートしましょう）」を制作し、放送した。「我們约会吧」は十年前の婚活番組と違い、新しいスタイルで人々の関心を寄せた。その後、江蘇テレビでは「you are the one」を放送し、奇跡的な高視聴率を獲得し、今までの中国でテレビ視聴率ナンバーワンの番組だと言われている。これら2番組は新たな婚活番組のスタイルを築いたと言える。

第一期の段階では全面的なヒットには至らなかったが、第二期ブームは話題の「剩女」をうまく使い、広範囲で視聴されたため、その影響力は大きい。

## まとめ

中国では、30～49歳の独身男性人口は同じ年齢層の独身女性人口よりはるかに多い。また都市部と農村部の両方で女性人口不足が確認され、都市部における「剩女」の大量存在は確認されなかった。わずかに女性過剰が確認されるのは高卒の35歳以上と短大卒の30歳以上であり、大卒・院卒では35歳以上でわずかに男性より多いだけであり、その数も比率も非常に少ない。とくに「剩女」の対象である高学歴（大卒・院卒）の「適齢期を過ぎた」とみなされる30歳～34歳の女性人口はむしろ足りない現状である。

ではなぜ「剩女」が話題にされるのか、その原因には中国の伝統的な結婚観があることが鮮明に浮かび上がってきた。中国では結婚に対する期待が強く、結婚は社会の一員として認められる必要不可欠な要素だと思われる。そのために世界諸国に比べ、結婚人口の割合は極めて高い。

一方、90年代から男女の初婚年齢が上がり始め、特に都市部の女性に急激な上昇が確認され、特に2010年以降、25～29歳の都市部女性の未婚率は例年より著しく増加した。このような晩婚化の流れは伝統意識と反するために、メディアはこの現象に焦点を合わせ、「剩女」現象を作り上げたのだと考えられる。そして「剩女」を大々的に取り上げることによって、結婚の重要性を女性に呼びかけている。

メディアはドラマだけでなく、婚活番組などでも「結婚」の重要性を執拗に女性に訴えかけ、「剩女」イメージを人々の心に植えつけている。それは、貧富の両極化が進行する中で、結婚できない大量の男性たちの存在から人々の目をそらさせる役目も果たしているように思われる。今後、晩婚化はさらに進行するだろう。「剩女」ブームの行方はどうなるのか、これからも注目していきたい。



## 註

1. 中華人民共和国国家統計局の全国人口センサス（「全国人口普查」）による。
2. 「負け犬とは狭義では未婚、子ナシ、三十代以上の女性のことを示す」（酒井順子『負け犬の遠吠え』p8）。中国の「剩女」概念には高学歴という項目がつけられているに對し、日本の「負け犬」には高学歴は条件に含まれない。又、「負け犬」は30代以上の女性を対象としているのに対し、「剩女」は初期では30代以上の女性を指していたものの、近年では年齢層を広げて低年齢化の傾向にあり、25歳以上の女性もその枠に入るようになった。
3. 陳友華、呂程『剩女：一個構建失実的偽命題』《学海》2011年2月。使用データは1990年～2005年。「剩女」の年齢幅を30～49までと設定（人口学において、50歳までに結婚していない人を生涯未婚者と見なす）。
4. 「高校生生活と意識に関する調査」（一ツ橋文芸教育振興会・日本青少年研究所）2003年9～10月実施、日米中韓の高校生各1000～3000票。
5. 「第六次全国人口普查」により筆者作成。「第六次全国人口普查」中華人民共和国統計局、2010年実施、全国対象。
6. 『Sex and the City』、1998年～2004年、ケーブルテレビ局HAOで放送された。原作はニューヨーク在住のライター Candace Bushnellが週刊『ニューヨーク・オブザーバー』に連載していたコラム『Sex and NEWYORK』を書籍化したものである。
7. 『ブリジット・ジョーンズの日記』1996年出版の女流小説家ヘレン・フィールディングの小説であり、世界中でベストセラーとなった。30歳独身女性である主人公の日記の体裁をとっている。2001年に映画化された。
8. 『anego アネゴ』、原作は林真理子の小説。日テレ系列の2005年4月20日から同年6月22日まで水曜ドラマ（22時）で放送されたテレビドラマ。
9. 『私の名前はキムさんスン』、2005年6月1日から7月21日まで韓国MBCで放送されたテレビドラマ。全16話、原作はインターネット小説。
10. 『タルジャの春』、韓国KBSで2007年1月3日から3月15日まで放送されたテレビドラマ。全22話。
11. 『魔女ユヒ』、韓国SBSで2007年3月21日から5月10日まで放送された月火テレビドラマ。全16話。
12. 『負け犬女王』、台湾三立電視で2009年1月10日より2009年5月31日まで放送された高視聴率の人気ドラマ（台湾電視公司以2009年1月4日より放送された）。全21話。
13. 『負け犬 ボディーガード』、2012年7月31日から11月26日まで台湾三立電視で放送されたテレビドラマ。全82話。
14. 『美女也愁嫁』、2006年3月27日から中央テレビで放送、計25回。
15. 『晩婚』、2009年12月1日から中央テレビで放送、計32回。
16. 『大女当嫁』、2010年4月3日中国中央テレビ局で放送、計25回。
17. 中国大手ソーシャルネットワークのウェブサイトである豆瓣（www.douban.com）をデータベースに調査した結果である。本サイトの利用者の大部分は知識人や大学生である。主に①映画評論「相愛要乘早，愛情童話不属与都市大齡女」（「恋なら早い内，ロマンチックなラブファンタジーは都市の負け犬のものではない」）<http://movie.douban.com/review/3160785/> と②映画評論「愛情，年輕時的贅沢品」「愛情，若い時の贅沢品」）<http://movie.douban.com/review/3147098/> を分析。
18. 『私の名前はキムさんスン』2005年6月1日から7月21日まで韓国MBCで放送されたテレビドラマ。全16話、原作はインターネット小説。

19. 『張小五的春天』（訳：シャオウーの春）2010年4月15日から中国中央テレビ局で放送されたテレビドラマ。全25回。
20. 『一向前沖』（訳：イーイー頑張れ）中央テレビ局で2010年11月19日から放送されるテレビドラマである。計28回。
21. 『銭多多嫁人記』（訳：チェン デウオデウオの結婚話），2009年1月に出版される小説。作者はネットライター「人海中」。テレビドラマでは少し改編が見られる。
22. 『李春天的春天』（訳：リ チュンテンの春）2011年7月20日より中央テレビ局で放送されたテレビドラマである。原作は庄羽の小説『此去经年』。
23. 『盛女の黄金時代』（訳：「盛女」のゴールデンタイム），2011年5月3日から放送されたテレビドラマであり，計26話。
24. 「相約星期六」（土曜日のデート），1998年1月24日に上海東方テレビで放送開始。毎週土曜日19:00から放送。
25. 「薔薇之約」（バラの約束），1998年7月16日から2005年8月2日まで湖南テレビで放送。
26. 「take me out」，元々は2008年9月1日から2009年2月26日までオーストラリアので放送される出会い番組「taken out」である。

（都市イノベーション学府博士前期課程・都市地域社会専攻 平成25年度修了）